

輪の国びわ湖推進協議会
令和5年度（2023）総会 次第

■日 時：2023年5月19日（金）
■場 所：チカ守山 および ZOOM

1) 開会 司会

2) あいさつ

3) 議事

第1号議案 令和4年度（2022）事業報告（案）

第2号議案 令和4年度（2022）事業決算（案）

第3号議案 令和5年度（2023）事業計画（案）

第4号議案 令和5年度（2023）事業予算（案）

第5号議案 規約の改正（案）

4) 閉会

第1号議案 輪の国びわ湖推進協議会令和4年度（2022）事業報告（案） （令和4年（2022）4月1日～令和5年（2023）3月31日）

輪の国びわ湖推進協議会（以下、協議会）では、令和4年度（2022）、「各主体との連携を深め、自転車を日常利用することの価値を高める」（自転車ありきではない弱者優先のまちづくり、自転車ネットワーク計画）を基本方針として、以下の事業を企画・実施した。

〔1〕普及啓発：自転車ファンを増やし正しい乗り方を広める

1 広報事業

(1) オンライン

びわ湖一周サイクリングを契機として、県内外に対して自転車生活の素晴らしさと具体的な導入方法を提案するため、ウェブサイトやメールマガジンなどで、びわ湖一周に関する情報や、滋賀県内のサイクリングイベント、ツアー情報などの発信を行った。

(ア) Web ページやメールマガジンなどを使った広報活動を実施する。

ーWeb ページ「びわ湖一周 輪の国びわ湖」

＜内容＞

- ・びわ湖一周に関する情報
- ・びわ湖一周コースの紹介（マップ）
- ・びわ湖一周認定証
- ・イベント情報 など

＜実施日時＞

随時

＜実績＞

輪の国びわ湖ウェブサイトのページビュー 18,000/月

ーメールマガジン「びわ湖一周メールマガジン」

＜内容＞

- ・関連イベントの紹介
- ・自転車関連コラム
- ・道路情報 など

＜実施日時＞

毎月15日、12回発行。必要に応じて臨時号を発行

(2) オフライン

1) ビワイチガイドブックの出版

ー「ビワイチ公式ガイドブック びわ湖一周 滋賀じてんしゃ旅」を八重洲出版を通じて出版
県庁記者クラブでの発表も行った

2) ビワイチガイドブックの広報

ービワイチ公式ガイドブック出版記念ライドの実施

ガイドブック制作メンバーの親睦を深めるため、2022年5月14日、米原から長浜への出版記念ライドを行った。

ービワイチ公式ガイドブック出版記念・サイクルツーリズムシンポジウムの開催

（報告はサイクルツーリズムシンポジウムの項目を参照）

ービワイチ公式ガイドブックモニターツアーの実施

目的：ガイドブックに掲載したコースを用いてツアーを開催し、今後の商品化等の可能性を探る

内容：

- ・第1回 2022年11月13日(日) 米原・日本遺産と水源をめぐる水の里の旅
⇒ 雨天のため2023年3月19日(日)に変更して実施
参加者9名
スタッフ：マイクリングの方4名、藤本
- ・第2回 2022年11月20日(日) 「オクイチ」～奥びわ湖の歴史と自然をめぐる
アドベンチャーライド
参加者 8名
スタッフ：乾、田中、藤本、佐山(サポートカー)
- ・第3回 2022年12月4日(日) 水がつなぐ二つの古都・琵琶湖疏水と街道を
めぐるサイクリング
参加者3名
スタッフ：福富、田中、藤本

実施の様様をサイクルスポーツウェブサイトに掲載

- 3) 広報用のパンフレットの更新・増刷を行う。
内容を更新し、5,000部印刷を行った
- 4) 事業紹介パンフレットの制作・印刷を行う。
実施せず
- 5) 認定証取得者向けの冊子「びわこじてんしゃ」の編集・発行を行う。
自転車によるびわ湖一周及び自転車利用を推進するため、認定証取得者向けの冊子「びわこ
じてんしゃ」を編集。発行(年2回：2022年度秋期、2023年春期)、約2000部を
配布した。
配布対象は、認定書発行者への認定証への同封、協賛ショップ(泊まる) 箇所に見本誌
として送付、設置した。

令和4年(2022年)秋号 VOL. 20

- ◇愛車じまん
- ◇ピワイチ・コミュニティ1
20代最後の挑戦は、友人と心に残るピワイチ!
- ◇ピワイチ・コミュニティ2
びわ湖への恩返し サイクリストによるびわ湖一斉清掃
- ◇輪の国スタッフおすすめお立ち寄りスポット
消えゆく街道「北国街道」を探して
- ◇びわ湖サイクルツーリズム最前線
11月3日は「ピワイチの日」!
- ◇輪の国なう
シンポジウム「びわ湖サイクルツーリズムが拓く持続可能
な社会～SDGsと気候危機の時代に自転車旅ができる貢献～」を開催しました
- ◇女子的ちゃり生活
初心者も完走できるよう先輩として



令和5年(2023)春号 VOL. 21

- ◇愛車じまん
- ◇ピワイチ・コミュニティ
親子で初ピワイチ
- ◇輪の国スタッフお勧めお立ち寄りスポット
どんな人にも優しいまち守山でのんびりサイクリング
- ◇びわ湖の快適・安全な走り方
ピワイチルートの整備が年々進んでいます。



- ◇輪の国なう！
ピワイチ公式ガイドブックの出版を記念して
- ◇女子的ちゃり生活
よそもいいけど、やっぱりピワイチ

6) 自転車利用の安全普及のためのポスターを作成、滋賀プラス・サイクル推進協議会と連携して関係箇所への配布を行う。

- (ア) 事業内容
滋賀プラス・サイクル推進協議会との共同で
自転車利用の安全普及のための新ポスターを県下に掲示
- (イ) 実施期間
年1回
- (ウ) 事業概要
自転車の安全確保に向けた取り組みの一つとして、マンガを用いた自転車利用の安全普及のためのポスター掲出を実施することを目指したが、今年度は寄付金付自販機の掲示スペースに、びわっこ三姉妹自転車旅行記のキャラクターによる「ピワイチマインド」の呼びかけパネルを作成した。

7) メディア・行政等への情報発信および講演・取材・視察対応

- (ア) 視察対応
 - ・一般社団法人十勝プラスの視察に対応した。
- (イ) 情報発信
 - ・「自転車利用環境向上会議 in さいたま」のポスターセッション（2022年11月4日）にて滋賀県でのサイクルツーリズム推進のとりくみ、および、自転車通勤の導入・推進を支援する動画教材の作成について報告。

(3) 展示PRの実施

びわ湖一周認定証の発行など輪の国びわ湖の活動の認知度向上、及び輪の国ビジョンの促進を目的に、各地、各団体が開催する展示会などに出展、PR活動を実施する。
また、あわせて自転車関連団体との交流を図る。

- (ア) 事業内容
自転車によるびわ湖一周及び自転車利用を推進するため、びわ湖一周サイクリング認定証の広報事業、及び輪の国ビジョンの促進に向けた周知を行う。
- (イ) 実施日時・場所
 - 1) 自転車イベント
サイクルモード、モリイチスタンプラリー等
モリイチスタンプラリー 2022年11月27日 広報用パンフレットの配布を行った。
ヤスイチサイクルフェス2023 2023年3月11日 広報用パンフレットの配布およびピワイチガイドブックの販売を行った。
 - 2) 一般イベント
予定なし
- (ウ) 受益対象者の範囲及び人数
パンフレット配布 約2500枚

2 びわ湖一周推進事業

(1) びわ湖一周サイクリング認定証の発行

- (ア) 事業内容
自転車によるびわ湖一周を推進するため、「びわ湖一周サイクリング認定証」の発行及び「びわ湖一周サイクリング認定ステッカー」の交付事業を行う。

- (イ) 実施日時
通年
- (ウ) 実施場所
びわ湖一周サイクリング認定証チェックポイント（17箇所）
- (エ) 受益対象者の範囲及び人数
びわ湖一周サイクリング認定証 目標値1, 837件
・1年に1回、チェックポイントの確認、メンテナンスを実施する。

(2) 協賛ショップの運営

協議会の活動主旨に賛同する店舗を協賛ショップと認定し、各種サービスの提供など、自転車にやさしい滋賀づくりを目指す。

また空気ポンプの設置を伴う寄付金付き自販機設置をし、チェックポイントとして1ヶ所新設（南三ツ谷公園）、休憩場所として1ヶ所内定した。

[2] 社会提案：自転車を活かす暮らし方・まちづくりを提案する

1 サイクルツーリズムシンポジウム

「市民の協同で地域を盛り上げるサイクルツーリズムをつくるには？」

主 旨：

サイクルツーリズムによって地域を盛り上げ、それを継続発展させていくためには、地域の人々や事業者が主体となり地域ぐるみで協力しあってそれぞれの課題に対応していける体制が必要です。幸い滋賀ではビワイチの盛り上がりにより、各地域でサイクルツーリズム推進や自転車利用促進を行う団体や個人が次々と現れるようになっていきます。しかし、「お互いバラバラでまとまりがない」との指摘をよく受けます。

そんな中、2022年4月に、滋賀で自転車関連の活動をしている人たちが集まり、ビワイチの新しいガイドブックを完成させました。

この協力をさらに発展させ、地域振興や、ひいては、滋賀に自転車ムーブメントを興し広げていくには今後何をしていくべきか？

自転車での世界一周の後、長野県辰野町を拠点に、まさに一人の市民から地域を巻き込み、サイクルツーリズムを通じた地域づくりを進めて来られた小口良平さんを講師にお招きし、ガイドブック制作メンバーと共に、今後市民が主体になって地域を盛り上げていく方法について考えました。

■日 時：2022年9月11日（日） 12：30～16：15（開場は12時）

■場 所：明日都浜大津 5階 大会議室（滋賀県大津市浜大津四丁目1番1号）
および ZOOM

■主 催：滋賀県プラス・サイクル推進協議会 輪の国びわ湖推進協議会 歴史街道推進協議会

■内 容：◇基調講演

「見えてきた、サイクルツーリズムの本質～まちづくりサイクリングガイドの重要性～」

小口良平さん〔自転車冒険家 & 自転車旅行研究家（サイクルアドバイザー）、
諏訪湖ハケ岳自転車活用推進協議会代表、長野県サイクルツーリズム推進協議会「Japan Alps Cycling Project」副代表〕

◇話題提供

「建物からエリアへ。エリアから概念へ。自転車がリレーションするまちづくり」

赤羽孝太さん〔一般社団法人〇と編集社 代表理事〕

◇滋賀県の事例

新野 恭平さん（JGGA 公認サイクリングガイドリーダー）

中井友紀乃さん

福富 雅之さん（和ウトドア）

角田祐一さん・畠山重仁さん・福田北斗さん（近江鉄道・ガチャ RIDE チーム）

乾 文久さん（ライダーハウス日本何周）

大西喜代利さん（一般社団法人滋賀県自転車競技連盟）

宮川美紀子さん（びわ湖守山・自転車新文化推進協議会）
山本 一男さん（びわポタサイクリング）
稲永 明子 （輪の国びわ湖推進協議会・歴史街道推進協議会）

◇ディスカッション

「滋賀をさらに盛り上げていくために何をするべきか？」

パネリスト

小口良平さん
赤羽孝太さん
一丸 剛さん（合同会社輪な道 代表社員）
乾 文久さん（ライダーハウス日本何周 代表）

コーディネーター

佐々木和之（輪の国びわ湖推進協議会事務局長）

◇基調講演

「見えてきた、サイクルツーリズムの本質～まちづくりサイクリングガイドの重要性～」

小口 良平（おぐちりょうへい）さん

自転車冒険家&自転車旅行研究家（まちづくりサイクルアドバイザー）。

長野県岡谷市出身。約8年半、157カ国、地球4周の自転車旅に出る。日本人歴代1位樹立。帰国後は、イベントや講演会、メディアに精力的に出演。まちづくりサイクルアドバイザーとして、コンサルティングを行う。行政や民間企業向けにサイクルツーリズムを提案し、マップ作成や観光商品開発、自転車環境整備、サイクリングガイド養成講習会運営、冒険教育キャンプ主催。2020年サイクルステーション「grav bicycle station」OPEN。2023年

「トビチホテル/シェアハウス」事業開始予定。2025年までに自転車冒険塾を開講予定。次の夢は2030年に南極自転車冒険、月への自転車旅。

《肩書》

- ・合同会社トビチカンパニー「grav bicycle」共同代表 /一般社団法人〇と編集社 理事
 - ・諏訪湖ハケ岳自転車活用推進協議会 代表
 - ・長野県サイクルツーリズム推進協議会「Japan Alps Cycling」 副代表
- 著書：「スマイル！（河出書房新社）」「果てまで走れ！（河出文庫）」



◇話題提供

「建物からエリアへ。エリアから概念へ。自転車がリレーションするまちづくり」

赤羽孝太さん〔一般社団法人 〇と編集社 代表理事〕

長野県辰野町出身。首都圏と辰野町の二地域暮らしをしながら、空き家・空き店舗を活用した地域づくり・まちづくり・エリアリノベーション活動を行う。

2018年に（一社）〇と編集社を設立し、イベント企画・運営、デザイン、コンセプトワーク、ブランディング、HP、建築設計、不動産、古物商、自転車、シェアオフィス、シェアハウス、企画ダイニング（飲食店）、コンサルティングなどの事業を行う。

2022年4月に（一社）〇と編集社の自転車事業部を核として合同会社トビチカンパニーを分社化して設立。

小口良平共同代表と共に、人と人・人と物・人とこと・人と場所・人と地域にリレーションをつくることで、価値を顕在化させ「見えない価値に、価値を」をコンセプトに事業を行う。
 2022年2月には、長野県全域を主な活動エリアにする「地域のより良いつづくをつくる」をコンセプトに掲げる、(一社) Local Innovation Initiatives に参画し、地域の中間支援者の伴奏支援や・中間支援組織の設立支援なども行う。

《肩書》

合同会社トピチカンパニー 共同代表社員
 一級建築士事務所 MMMstudio 代表
 一般社団法人 Local Innovation Initiatives 理事
 地域力創造アドバイザー（総務省） / コミュニティアーキテクト（一級建築士） / 宅建士



続いて、赤羽さんからは、実際の活動について、
 どのような仕組みでおこなっているのか、詳しく
 説明していただきました。

◇滋賀県の事例

ピワイチ公式ガイドブック「びわ湖一周 滋賀じてんしゃ旅」で、地域のコースづくりに協力したメンバーから、自身の滋賀での取り組み、今回作成したコースの紹介とあわせて、今後の課題などについて話しました。当日、参加できなかったメンバーは事前にインタビューの形式で作成した映像で発表しました。

映像での紹介

- 新野 恭平さん（JGGA 公認サイクリングガイドリーダー）
- 中井友紀乃さん
- 福富 雅之さん（和ウトドア）
- 角田祐一さん・畠山重仁さん・福田北斗さん（近江鉄道・ガチャ RIDE チーム）



会場での紹介

- 乾 文久さん（ライダーハウス日本何周）
- 大西喜代利さん（一般社団法人滋賀県自転車競技連盟）
- 宮川美紀子さん（びわ湖守山・自転車新文化推進協議会）
- 山本 一男さん（びわポタサイクリング）
- 稲永 明子（輪の国びわ湖推進協議会・歴史街道推進協議会）



◇ディスカッション

「滋賀をさらに盛り上げていくために何をするべきか？」

パネリスト

小口良平さん

赤羽孝太さん

一丸 剛さん（合同会社輪な道 代表社員）

彦根出身草津在住のコテコテの滋賀県人。京都産業大学卒業。28年間普通のサラリーマンを経て独立。滋賀県の魅力を多くの人にしてもらうため自ら旅行会社を設立。

滋賀での旅行商品をサイクリングツアーを中心に展開するため活動中。

国内旅行業務取扱管理者

日本サイクリングガイド協会会員

びもサイクル協議会（びわ湖・守山自転車新文化推進協議会）理事

輪の国びわ湖推進協議会運営委員

乾 文久さん（ライダーハウス日本何周 代表）

バイクで日本一周の旅をした時、北海道で利用したライダーハウスで旅を楽しむ人々の姿に感銘を受け、自らもライダーハウスを開くことを決心。

日本中を13年間、旅して見て回り、「宿を開くのは琵琶湖に近くてきれいな場所が良い」という思いから、夢の実現のため、兵庫県から琵琶湖最北端の長浜市西浅井町に移住。

2019年「ライダーハウス日本何周」をオープン。

奥びわ湖でのカヌーやSUPの自然体験アクティビティのガイドとしても活動するなど、滋賀の豊かな自然を満喫しながら、日本全国から宿を訪れるサイクリストたちとの出会いを楽しんでいる。

コーディネーター

佐々木和之（輪の国びわ湖推進協議会事務局長）

水色舎（すいしょくしゃ）代表

1973年東京都生まれ。滋賀県立大学を経て、九州工業大学大学院博士後期課程単位取得

退学。河川空間における住民行政連繫を研究していたことから、2009年川づくり・まちづくりコンサルタント水色舎（すいしょくしゃ）起業。輪の国びわ湖推進協議会の設立業務を担当し、設立時から事務局長。

滋賀の自転車活用推進の官民連携団体である滋賀プラス・サイクル推進協議会にも、元となったプラン策定時から関わる。

基調講演、話題提供を受け、「業としてのサイクルツアーガイド」「サイクリングと地域を盛り上げ、それを継続発展するには」「まとめ 民間と行政とのすみわけ 市民が主体となって盛り上げるには」などのセクションごとに、実際に滋賀で活動をされている方々が日頃感じていることや会場からの質問もあわせてパネルディスカッションがすすめられました。

※シンポジウムの内容は、WEBページにて公開

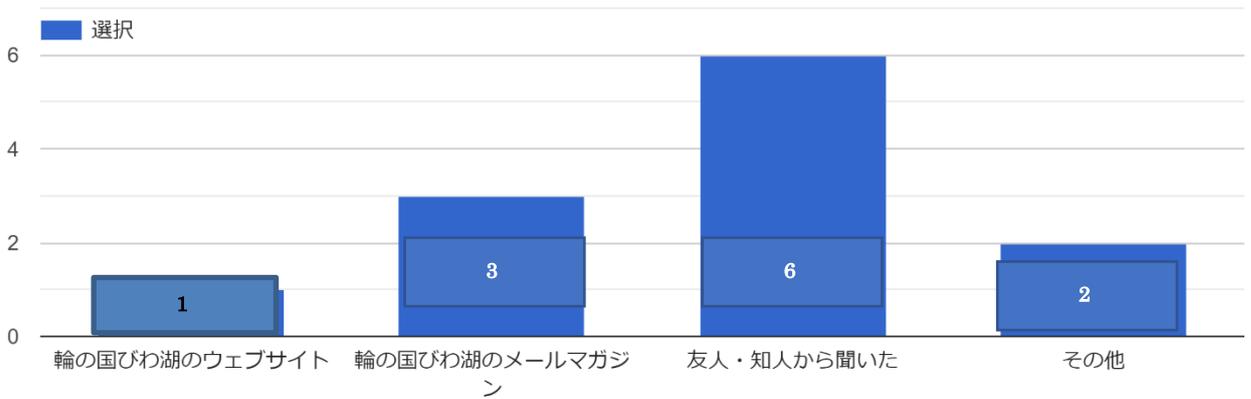
<https://www.biwako1.jp/news/20220918132600.html>

◇申込：54名（内 ZOOM 30名）

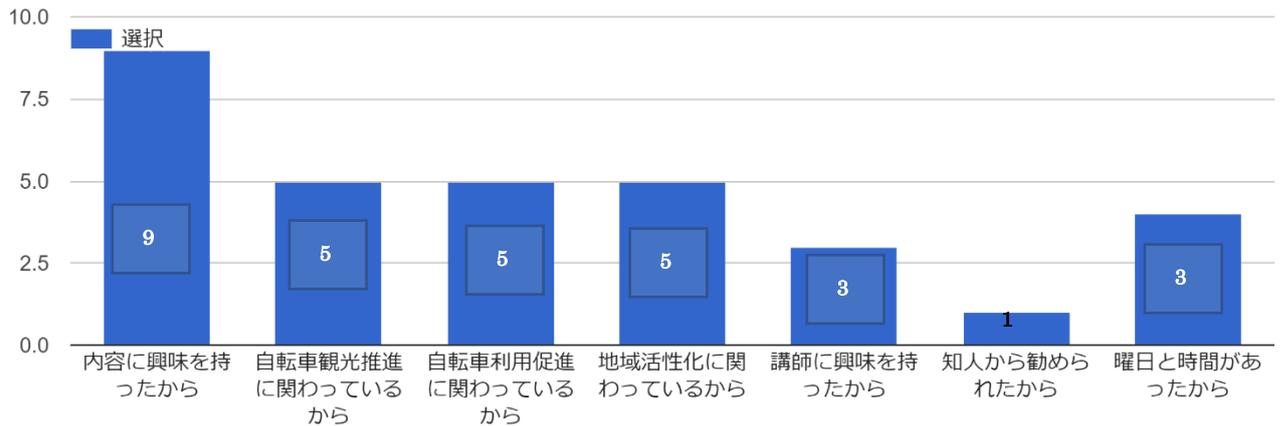


◇アンケート結果

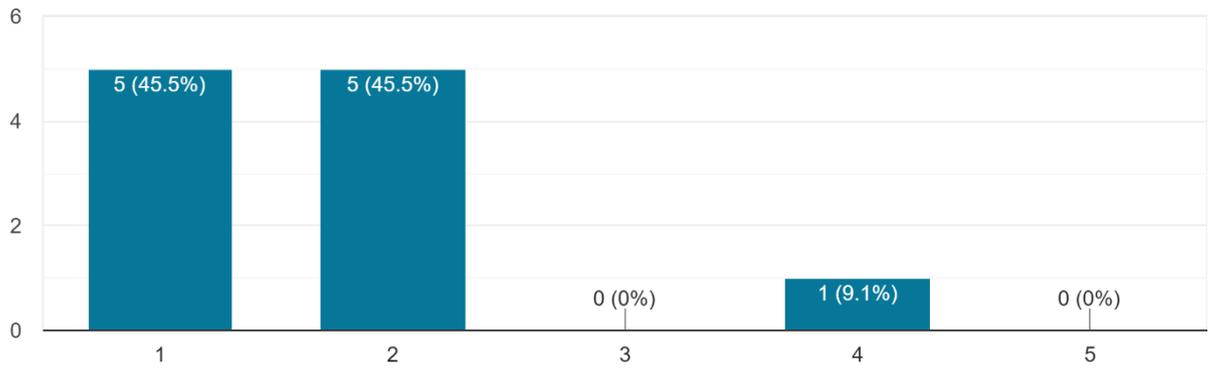
1. シンポジウムのことは何でお知りになりましたか？



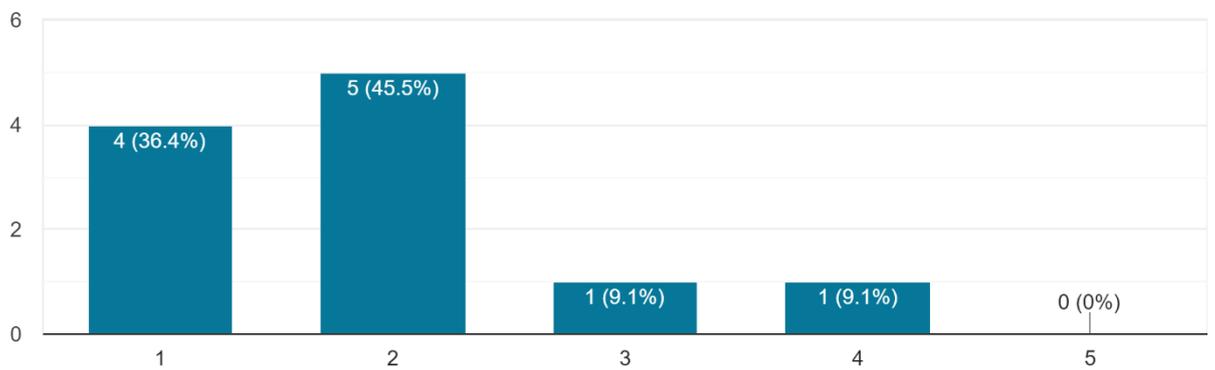
2. 今回のシンポジウムを聴講しようと思った理由をお聞かせください。(複数回答可)



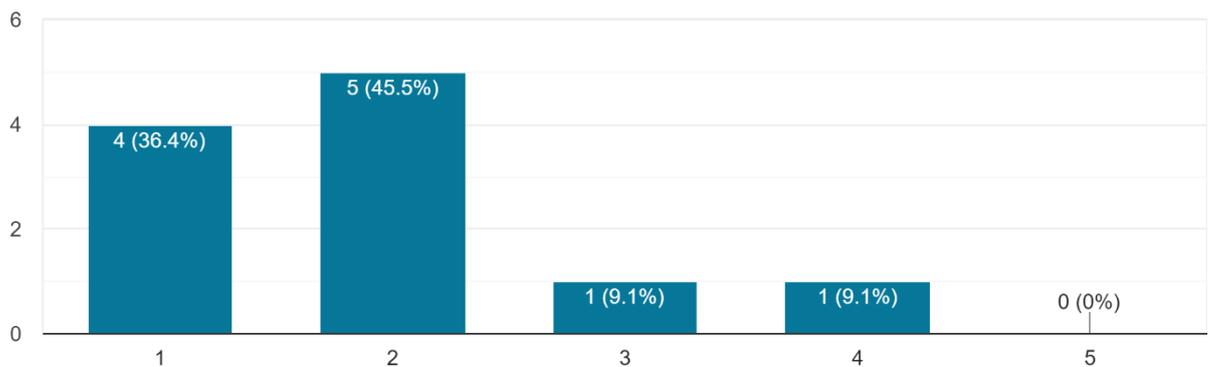
3. 基調講演「見えてきた、サイクルツーリズムの本質～まちづくりサイクリングガイドの重要性～」はいかがでしたか？（1 大変良かった ～ 5 全く良くなかった）



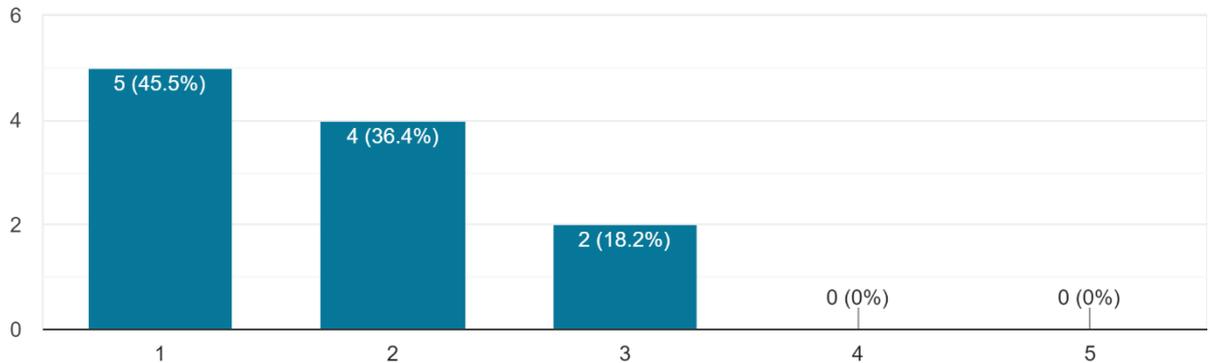
4. 話題提供「建物からエリアへ。エリアから概念へ。自転車がリレーションするまちづくり」はいかがでしたか？（1 大変良かった ～ 5 全く良くなかった）



5. 「滋賀県の事例」はいかがでしたか？（1 大変良かった ～ 5 全く良くなかった）



6. ディスカッション「滋賀をさらに盛り上げていくために何をすべきか？」はいかがでしたか？
 (1 大変良かった ～ 5 全く良くなかった)



7. 印象に残ったことは何ですか？

- パネルディスカッションおもしろかったです。
- 地域との連携
- 小口さんが世界一周をしてからサイクリングガイドになろうと決心したこと
琵琶湖のまわりには、たくさんの自転車関係者さんがいること。それぞれでツアーづくりができること。
- 新規店舗にサイクルスタンドを贈られていたこと
- 新規に開店した店舗にサイクルスタンドを贈っておられたという事例
- イベントを必要以上に大きくせず、それぞれの団体ごとに同時多発的に開催するということがされているということ。
- 雨の日や途中で雨が降ってきた時のガイドツアーについてのお話。
- 行政が民間の収益を潰してしまう場合があるというお話。
- 小口さんが考えるイベントを開催することの意味（地域の人にも関わっていただくということ）とイベントを通じて関わってくださった地域の方が主催側に回ってくださるというお話。
- 講師のお二人、特に小口さんのサイクルツーリズムに対する熱量が印象的でした。是非良い方向に進むといいと思いました。辰野にも行きたいと思いました。
- 「事業を実施する為」にイベントやツアーを実施するのではなく、「何の為に実施するのか」を共有する事が大事など、改めて共感する事がたくさんありました。
- 地域を巻き込むコンテンツ

8. 今後どのようなテーマがあれば参加してみたいとおもいますか？

- 自転車環境の整備
- 空き家対策を自転車のまちづくりに活かせる方法を学ぶ
- 全国の自転車を使った取り組み、折りたたみ自転車の可能性
- マナーアップや地域を巻き込んで活動を進めることができたという事例についてのお話を聞いてみたいです。行政との連携事例なども。
- 旧街道関係
- 地域づくりと自転車

9. 本日のご感想、その他のご意見・ご感想があればお聞かせください。

- 色々な市区町村が絡み合っている中で琵琶湖を通して一つにまとまっている事に驚きました。
- 事業を実際にされている方のお話は非常に説得力がありました。ありがとうございます。
- 基調講演、楽しかったです。実際に世界一周された装備も見てみたかったかな。
- まちづくりと自転車文化づくりは、関わりが深いな、と思いました。よいまちづくり、よい関係づくりは、自転車の走りやすさに繋がるし、盛り上がりにも繋がるのかな、と思いました。ありがとうございました。
- 旅が好きで、その一つの方法として一人のんびりと自転車に乗るようになりました。安全に気軽に自転車を日常に取り入れられたらと思います。

- ・感想へのご対応ありがとうございます。
- ・講演もさながらディスカッションが大変興味深いものでとても参考になりました。参加できてよかったです。
- ・7. でも記載しましたが、小口さんの熱量に感銘を受けました。司会をされていた佐々木さんの進行も非常にスムーズで良かったのではと思います。
- ・体験貴重な話がお聞きできました。ありがとうございました。

2 エコ交通の推進

滋賀県交通戦略課と協力し、一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク内にてエコ交通研究会を運営し、エコ交通の普及を図った。

滋賀グリーン活動ネットワーク（SGN）エコ交通研究会

通勤や事業活動における自動車の利用を公共交通および自転車、カーシェアリング等の環境配慮型の交通利用にシフトすることで、交通部門のCO2排出量を削減します。これにより自動車利用が当たり前という現代のパラダイムを転換し、通勤以外の移動の場面においても公共交通および自転車等の交通分担率を上げ、滋賀社会の脱炭素化に貢献する。

1) 内部学習会の開催

「日野町カーフリーデーに学ぶ、持続可能な地域と交通をめざす取組」

令和4年9月、日野町でカーフリーデーと1カ月間の社会実験が行われました。日野町と町内事業所、交通事業者が協力してマイカー通勤を電車・バス・自転車通勤に切り替えました。その実証実験はなぜ、どのように実現したのか、意義や成果、展望についてお話を伺い、脱炭素や持続可能な地域交通をめざして、これからの通勤のあり方と、エコシフトするための課題を考えた。

日時：令和5年（2023）年3月23日（木）
10:00-12:00

場所：コラボしが21 3階 中会議室

主催：一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワーク・
エコ交通研究会

概要：話題提供 1 日野町公共交通活性化「わたむき自動車プロジェクト」今後の展開に向けた考察

ゲストの皆さんからコメント

話題提供 2 「社会課題」と「社会課題」を融合
～公共交通に係る課題を解決するための提案

ディスカッション

ゲスト：日野町副町長 津田誠司さん

（株）オーケーエム 取締役 上席執行役員 生産統括本部長 福地正晴さん

（株）ダイフク 人事総務本部 総務部 滋賀総務グループ グループ長 小西良雄さん

近江鉄道（株）構造改革推進部部長 山田和昭さん

土井勉さん（一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長）

参加者：22人

報告：<https://kuunoru.blog.jp/archives/19523654.html>



2) 情報発信

－SGNの月刊メールマガジンにエコ交通研究会リレーコラム連載（12回）

－SGNのWebサイトにエコ交通研究会のページを運営

<https://www.shigagon.gr.jp/ecotsu/>

[3] 調査研究：自転車の使いやすい環境やツール等について研究する

1 もう一つのびわ湖の楽しみ方提案

- 1) 毎年恒例のプライベートツアー「女子的ピワイチ」を開催するにあたり、初めてピワイチに挑戦する人のための注意事項等についてノウハウを蓄積した。また、ピワイチ応援サロンに依頼し、パンク修理講座を企画した。

実施日：4月2日（土） 10:00～12:00

場 所：ピワイチ応援サロン（自転車工房ふいっと）

参加者：輪の国女子部 7名

- 2) 初心者連れてピワイチを安全に走行すること、休憩ポイントや立寄りどころなどについて、ピワイチに精通しているピワイチ応援サロンの浦松武司氏のガイドによるピワイチを体験した。

実施日：6月12日（日）・13日（月）

コース：米原発着・北湖一周

参加者：輪の国女子部 3名 滋賀県ピワイチ推進室 1名（1日のみ参加）

輪の国スタッフ 1名 計5名

- 3) 学生団体 mof との連携

女の子のひとり旅を応援する学生団体 mof と連携し、実際に湖北をサイクリングガイド付きでめぐって頂き、フリーペーパーたびじょ 26号に記事を掲載した

2 輪学の開催

自転車関係者のネットワーク強化を念頭におき、自転車に関する事柄をさまざまな角度から勉強していくことを目的に、公開での勉強会や講演会を実施した。

本年度は特に、自転車関係者のネットワーク強化を目的に開催した。

- ・第一回「自転車×巡礼から考えるピワイチの可能性」

実施日：12月11日（日）19:00～

場 所：草津市立市民交流プラザ&ZOOM

内 容：サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の報告（藤本芳一）に続き、久しぶりの輪の国びわ湖初代会長近藤隆二郎さんのライフワークとも言える巡礼の研究成果のお話で盛り上がりました。ピワイチのさらなる振興のヒントが多くありました。

- ・第二回「人を呼び込み、地域の誇りを育む『景観力』」

実施日：1月27日（金）19:00～

場 所：チカ守山&ZOOM 19:00～

内 容：京都市立芸術大学教授の藤本英子さんに、「景観力」を活かした地域づくりについて語っていただきました。

- ・第三回「自転車だから見える景色、世界自転車旅の魅力」

実施日：3月24日（金） 19:00～

場 所：チカ守山&ZOOM

内 容：NPO 法人五環生活のサイクリングガイド、加藤竜真さんから、世界を旅し、出会った自然・体験・人などのお話を通して、世界自転車旅の魅力について語っていただきました。

3 受託事業の実施

- 1) 滋賀プラス・サイクル推進協議会の事務局を担当した。

- 2) その他、輪の国推進協議会の理念を実現するために必要な事業を円滑に行うために設立された（一社）輪の国びわ湖の事業への協力をおこなった。

①サイクルツーリズムシンポジウム

②子ども自転車教室

③ピワイチサイクリングマップ改定増刷

- ④甲賀市（モニターツアー・英語版マップ）
- ⑤日野町プラスサイクル体験事業
- ⑥日野町自転車観光ツアー事業
- ⑦野洲市サイクリングマップ
- ⑧サイクルサポートステーション講習会
- ⑨子ども団体用ピワイチマニュアル作成

[4] ネットワーク活動：交通に関連する団体や個人と関係を深める

1 滋賀グリーン活動ネットワーク エコ交通研究会との連携

自転車通勤等のエコ通勤やエコ交通システムの普及啓発について研究および実践を行った。

[2] 1 参照

2 日野町わたむき自動車プロジェクトとの連携

日野町では、通勤・通学バスの実証実験や人流データの活用などを行い、持続可能な公共交通体系の構築をめざすプロジェクト、「わたむき自動車プロジェクト」が2021年（令和3年）4月1日に始まった。それを運営する「わたむき自動車プロジェクト」推進協議会に2022年（令和4年）1月17日の設立時から構成団体として参画している。

本年度は、9月22日（木）に開催された「日野町カーフリーデー」の実証実験と会議およびイベントに参加した。

3 マザーレイクゴールズ推進委員会との連携

滋賀県版 SDGs である MLGs（マザーレイクゴールズ）とピワイチの関係を考える、安土のまちなかと西の湖のポタリングつき MLGs ワークショップを企画運営した。

ピワイチが“持続可能な社会”を実現できるってホント？ 自転車で作るウェルビーイング

■日時 : 2022年10月10日（月祝）10:00-15:30

■場所 : 午前/JR安土駅から西の湖
午後/安土楽市楽座館、オンライン併催
(近江八幡市安土町常楽寺616/安土駅からすぐ)

■主催 : マザーレイクゴールズ推進委員会

■企画運営: 輪の国びわ湖推進協議会

■参加者 : 15名

■内容 :
10:00 サイクリングガイド伊藤真紀さん案内による西の湖ポタリング
12:00 自転車返却、昼食休憩（自由時間）
13:30 みんなで語ろう「ピワイチがMLGsの達成に役立ってホント？」

4 自転車新文化を作るネットワーク活動

輪学2017のネットワークを中心に、自転車新文化を創るネットワーク活動を関係する団体とともに展開した。

(ア) 事業内容

サイクルツーリズムシンポジウム、ピワイチ2.0、輪学2017に参加した関係団体を中心に、県内の自転車関係者のつながる場を創り、互いの活動の連携を深める。

本年度は、ピワイチ公式ガイド作成と輪学における意見交換を通じて互いの活動を知り合い、連携を深める。

(イ) 実施日時

数回程度

5 その他

先進事例調査、市民参加のマップづくり（道路整備につなげる）、通学用自転車とヘルメットの改善など、方針1を進めるために必要な事業に取り組む。

自転車イベント・ツアー等の広報、スタッフの融通、助っ人制度、サイクルガイドのネットワークなど、方針2を進めるために必要な事業に取り組む。

6 会議の実施

協議会事業の推進のため、運営委員会として「輪の国びわ湖」ミーティング及びリトリートを実施する。

1) リトリート

協議会事業の中長期展望を考えるため、丸一日かけて「輪の国びわ湖」リトリートを実施した。直面している現在の問題点を共有、整理し、課題化を行った。
2月26日（日）於：アープしが

2) 定例会議の実施

協議会事業の推進のため、「輪の国びわ湖」ミーティングを実施した。

実施日時、実施場所（*印は運営委員会）

実施日	名称	場所
4月19日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
5月17日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
5月17日	「輪の国びわ湖」総会	チカ守山&オンライン（ZOOM）
6月21日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
7月19日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	オンライン（ZOOM）
8月23日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
9月20日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
10月18日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
11月15日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
12月13日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）
1月24日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	オンライン（ZOOM）
2月28日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	オンライン（ZOOM）
3月28日	「輪の国びわ湖」ミーティング*	チカ守山&オンライン（ZOOM）

上記とあわせ、事業進捗を確認する進捗MTを原則週1回、オンラインを活用して実施した。

第2号議案 輪の国びわ湖推進協議会 令和4年度(2022)事業決算(案)

令和4(2022)年4月1日 から 令和5(2023)年3月31日 まで

収入の部			
項目		R4決算額	R4予算額
繰り越し		¥1,772,049	¥1,772,049
事業収入			
びわ湖一周サイクリング認定証	1837	¥1,766,450	¥1,300,000
Webページ広告収入		¥0	¥30,000
書籍販売収入(買上)		¥4,620	¥0
書籍印税収入		¥1,345,148	¥1,500,000
出展費(協賛会収入)		¥0	¥0
輪学会費		¥0	¥0
受託事業費		¥1,712,000	¥1,200,000
物販		¥0	¥0
寄付金		¥61,561	¥50,000
講演・取材対応		¥0	¥50,000
ロイヤリティ		¥438,795	¥0
基金			
ガイドブック作成費		¥0	¥0
雑収入			
利子		¥55	¥100
雑収入		¥0	¥1,000
合計		¥7,100,678	¥5,903,149
支出の部			
項目		R4決算額	R4予算額
事業費			
びわ湖一周サイクリング認定証事務費	1837	¥993,732	¥650,000
びわ湖一周サイクリング認定証材料費		¥243,048	¥100,000
びわ湖一周システム改修費		¥0	¥0
広報費(パンフレット等)			¥80,000
広報費(Webサイト)		¥27,600	¥100,000
物販		¥0	¥0
寄付金付き自販機事業		¥4,848	¥5,000
輪学運営費		¥223,956	¥200,000
エコ交通の推進		¥226,420	¥200,000
出展費		¥10,500	¥10,000
安全啓発ポスター		¥26,000	¥100,000
ガイドブック・Webサイトに向けたコンテンツ作成		¥1,939,224	¥2,000,000
もう一つのびわ湖の楽しみかた提案		¥222,082	¥100,000
受託事業費		¥1,301,043	¥856,340
講演取材対応		¥0	¥0
事務費			
会議運営・総会運営		¥120,000	¥120,000
会議会場費用		¥50,000	¥50,000
事務用FAX費		¥14,031	¥12,936
税理士		¥165,000	¥165,000
運営費			
ホームページサーバー費		¥5,238	¥5,238
ホームページドメイン費		¥3,124	¥3,124
ホームページメンテナンス費		¥50,000	¥50,000
諸会費			
びわこビクターズビューロー会費		¥10,000	¥10,000
滋賀グリーン活動ネットワーク会費		¥5,000	¥5,000
基金			
ガイドブック作成費		¥100,000	¥0
法人税			
法人税		¥72,200	¥600,000
雑費			
振込手数料		¥27,655	¥25,000
その他雑費		¥240,575	¥455,511
合計		¥6,081,276	¥5,903,149
	差し引き	¥1,019,402	¥0

輪の国びわ湖推進協議会令和4年度貸借対照表
令和5（2023）年3月31日現在

令和4年度 貸借対照表			
資産の部		負債の部	
預金・現金	¥5,420,904	未払金	¥11,809,111
未収金	¥9,072,355	預り金	¥341,952
流動資産計	¥14,493,259	負債計	¥12,151,063
		純資産の部	
固定資産計	¥0	繰越利益	¥2,342,196
		純資産計	¥2,342,196
資産合計	¥14,493,259	負債及び純資	¥14,493,259
令和4年度 ガイドブック基金			
項目	収入	支出	残高
			¥0

監査報告書

回答を編集できません

令和4年度 監査報告書

* 必須の質問です

輪の国びわ湖推進協議会藤本芳一 殿

令和4年度の会計について監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。*

海老島 均

送信日時: 2023/05/18 13:27

第3号議案

輪の国びわ湖推進協議会令和5年度（2023）事業計画（案） （令和5年（2023）4月1日～令和6年（2024）3月31日）

輪の国びわ湖推進協議会（以下、協議会）では、令和5年度、以下の方針に基づき事業を推進する。

【輪の国びわ湖令和4年度（2022）事業について】

〔1〕普及啓発：自転車ファンを増やし正しい乗り方を広める

1 広報事業

(1) オンライン

1) 「輪の国びわ湖」ウェブサイトの運営

びわ湖一周サイクリングを契機として、県内外に対して自転車生活の素晴らしさと具体的な導入方法を提案するため、ウェブサイトやメールマガジンなどで、びわ湖一周に関する情報や、滋賀県内のサイクルイベント、ツアー情報などの発信を行う。

(ア) 事業内容

Web ページやメールマガジンなどを使った広報活動を実施する。

Web ページ「びわ湖一周 輪の国びわ湖」

<内容>

- ・びわ湖一周に関する情報
- ・びわ湖一周コースの紹介（マップ）
- ・びわ湖一周認定証
- ・イベント情報 など

メールマガジン「びわ湖一周メールマガジン」

<内容>

- ・関連イベントの紹介
- ・自転車関連コラム
- ・道路情報
など

(イ) 実施日時

通年

メールマガジン：毎月15日発行。必要に応じて臨時号を発行する。

(ウ) 実施場所

びわ湖一周サイクリング応援メールマガジン

※配信数の目標値は定めない

輪の国びわ湖ウェブサイトのページビュー

約40,000/月

(2) オフライン

1) ビワイチガイドブックの広報

2) 広報用のパンフレットの更新・増刷を行う。

3) 事業紹介パンフレットの制作・印刷を行う。

4) 認定証取得者向けの冊子「びわこじてんしゃ」の編集・発行を行う。

(ア) 事業内容

自転車によるびわ湖一周及び自転車利用を推進するため、認定証取得者向けの冊子「びわこじてんしゃ」を編集・発行する

(イ) 実施日時

びわこじてんしゃの発行：年2回（令和5年（2023）秋期、令和6年（2024）春期）

- (ウ) 実施場所
認定証取得者への認定証へ同封、協賛ショップ（泊まる）の客室に 14 箇所各号約 700 部見本誌設置
- (エ) 受益対象者の範囲及び予定人数
びわこじてんしゃ配布数 約 3000 部

4) 自転車利用の安全普及のためのポスターを作成、滋賀プラス・サイクル推進協議会と連携して関係箇所への配布を行う。

- (ア) 事業内容
滋賀プラス・サイクル推進協議会との共同で
自転車利用の安全普及のための新ポスターを県下に掲示
- (イ) 実施期間
年 1 回
- (ウ) 事業概要
自転車の安全確保に向けた取り組みの一つとして、マンガを用いた自転車利用の安全普及のためのポスター掲出を実施する。

5) メディア・行政等への情報発信および講演・取材・視察対応を行う。

(3) 展示 PR の実施

びわ湖一周認定証の発行など輪の国びわ湖の活動の認知度向上、及び輪の国ビジョンの促進を目的に、各地、各団体が開催する展示会などに出展、PR 活動を実施する。
また、あわせて自転車関連団体との交流を図る。

- (ア) 事業内容
自転車によるびわ湖一周及び自転車利用を推進するため、びわ湖一周サイクリング認定証の広報事業、及び輪の国ビジョンの促進に向けた周知を行う。
- (イ) 実施日時・場所
 - 1) 自転車イベント
サイクルモード、モリイチスタンプラリー等
 - 2) 一般イベント
予定なし
- (ウ) 受益対象者の範囲及び人数
パンフレット配布 約 3000 枚

2 びわ湖一周推進事業

(1) びわ湖一周サイクリング認定証の発行

- (ア) 事業内容
自転車によるびわ湖一周を推進するため、「びわ湖一周サイクリング認定証」の発行及び「びわ湖一周サイクリング認定ステッカー」の交付事業を行う。
- (イ) 実施日時
通年
- (ウ) 実施場所
びわ湖一周サイクリング認定証チェックポイント（17 箇所）
- (エ) 受益対象者の範囲及び人数
びわ湖一周サイクリング認定証 目標値 1800 件
・ 1 年に 1 回、チェックポイントの確認、メンテナンスを実施する。

(2) 協賛ショップの運営

協議会の活動主旨に賛同する店舗を協賛ショップと認定し、各種サービスの提供など、自転車にやさしい滋賀づくりを目指す。

[2] 社会提案：自転車を活かす暮らし方・まちづくりを提案する

1 サイクルツーリズムシンポジウム

(ア) 事業内容

旧街道自転車旅研究会と連携し、中山道のサイクルツーリズムをテーマとしたシンポジウム、走行会を開催する。

(イ) 実施日時

1回

2 エコ交通の推進

滋賀県交通戦略課と協力し、一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク内にてエコ交通研究会を運営し、セミナー等を通じてエコ交通の普及を図る。

(ア) 事業内容

滋賀グリーン活動ネットワークのエコ交通研究会にて、セミナー等を通じてエコ交通の普及を図る。

(イ) 実施日時

セミナーの開催、キャンペーンの企画運営、情報提供などを実施する。

3 カーゴバイクシンポジウム

ヨーロッパで普及が進む、カーゴバイクの認知を日本でも高めるためのシンポジウムを開催する。

[3] 調査研究：自転車の使いやすい環境やツール等について研究する

1 もう一つのびわ湖の楽しみ方提案

女子的ビワイチを通じた研究を行う。「初めてのビワイチ」「女子のための自転車生活のはじめ方」等のノウハウをまとめていく。

2 自転車女子コミュニティづくり

自転車で楽しむことや自転車と暮らすことを自分のライフスタイルに選ぶ女性「自転車女子（ちゃり女）」を増やすための試行を行う。

3 輪学の開催

自転車関係者のネットワーク強化を念頭におき、自転車に関する事柄をさまざまな角度から勉強していくことを目的に、公開での勉強会や講演会を実施する。

(ア) 事業内容

自転車関係者のネットワーク強化を念頭におき、自転車に関する事柄をさまざまな角度から勉強していくことを目的に、公開での勉強会や講演会を実施する。

本年度は、自転車関係者のネットワーク強化を目的に開催する。

(イ) 実施日時

数回程度

4 受託事業の実施

1) 滋賀プラス・サイクル推進協議会の事務局を担当する。

2) その他、一般社団法人輪の国びわ湖との連携など、必要な事業を行う。

[4] ネットワーク活動：交通に関連する団体や個人と関係を深める

- 1 滋賀グリーン活動ネットワーク エコ交通研究会との連携
自転車通勤等のエコ通勤やエコ交通システムの普及啓発について研究および実践を行う。

- 2 自転車新文化を作るネットワーク活動
輪学 2017 のネットワークを中心に、自転車新文化を創るネットワーク活動を関係する団体とともに展開する。
(ア) 事業内容
サイクルツーリズムシンポジウム、ピワイチ 2.0、輪学 2019 に参加した関係団体を中心に、県内の自転車関係者のつながる場を創り、互いの活動の連携を深める。
本年度は、ピワイチ公式ガイド作成と輪学における意見交換を通じて互いの活動を知り合い、連携を深める。
(イ) 実施日時
数回程度

- 3 その他
先進事例調査、市民参加のマップづくり（道路整備につなげる）、通学用自転車とヘルメットの改善、ピワイチの日・ピワイチ週間との連携など、方針 1 を進めるために必要な事業に取り組む。
自転車イベント・ツアー等の広報、スタッフの融通、助っ人制度、サイクルガイドのネットワークなど、方針 2 を進めるために必要な事業に取り組む。

- 4 会議の実施
協議会事業の推進のため、運営委員会として「輪の国びわ湖」ミーティング及びリトリートを実施する。
(ア) 事業内容
輪の国びわ湖推進協議会規約第八条における運営委員会を、「輪の国びわ湖」ミーティング及びリトリートの名称で実施する。
(イ) 実施日時、実施場所
「輪の国びわ湖」ミーティング 月 1 回実施 11 回
「輪の国びわ湖」リトリート（日帰りミーティング）※ 年 1 回程度実施
総会 年 1 回実施
※ワークショップ 輪の国びわ湖としての中長期方針や広報戦略、ブランディング、体制づくり等について検討

第4号議案 輪の国びわ湖推進協議会 令和5年度(2023)予算(案)

令和5(2023)年4月1日から令和6(2024)年3月31日まで

収入の部		R5予算額	R4予算額
項目			
繰り越し		¥1,019,402	¥1,772,049
事業収入			
びわ湖一周サイクリング認定証	1800	¥1,800,000	¥1,300,000
Webページ広告収入		¥30,000	¥30,000
書籍販売収入(買上)		¥0	¥0
書籍印税収入		¥0	¥1,500,000
出展費(協賛会収入)		¥0	¥0
輪学会費	10人×5回	¥25,000	¥0
受託事業費		¥700,000	¥1,200,000
物販		¥0	¥0
寄付金		¥50,000	¥50,000
講演・取材対応		¥0	¥50,000
ロイヤリティ		¥40,000	¥0
基金			
ガイドブック作成費		¥0	¥0
雑収入			
利子		¥100	¥100
雑収入		¥1,000	¥1,000
合計		¥3,665,502	¥5,903,149
支出の部			
項目		R5予算額	R4予算額
事業費			
びわ湖一周サイクリング認定証事務費	1800	¥900,000	¥650,000
びわ湖一周サイクリング認定証材料費		¥100,000	¥100,000
びわ湖一周システム改修費		¥0	¥0
広報費(パンフレット等)		¥80,000	¥80,000
広報費(Webサイト)		¥50,000	¥100,000
物販		¥0	¥0
寄付金付き自販機事業		¥5,000	¥5,000
輪学運営費		¥350,000	¥200,000
エコ交通の推進		¥200,000	¥200,000
出展費		¥10,000	¥10,000
安全啓発ポスター		¥100,000	¥100,000
ガイドブック・Webサイトに向けたコンテンツ作成		-	¥2,000,000
もう一つのびわ湖の楽しみかた提案		¥120,000	¥100,000
受託事業費		¥641,340	¥856,340
講演取材対応		¥0	¥0
事務費			
会議運営・総会運営		¥120,000	¥120,000
会議会場費用		¥50,000	¥50,000
事務局FAX費		¥12,936	¥12,936
税理士		¥165,000	¥165,000
運営費			
ホームページサーバー費		¥5,238	¥5,238
ホームページドメイン費		¥3,124	¥3,124
ホームページメンテナンス費		¥50,000	¥50,000
雑会費			
びわこビクターズビューロー会費		¥10,000	¥10,000
滋賀グリーン活動ネットワーク会費		¥5,000	¥5,000
基金			
ガイドブック作成費		¥100,000	¥0
法人税			
法人税		¥500,000	¥600,000
雑費			
振込手数料		¥25,000	¥25,000
その他雑費		¥62,864	¥455,511
合計		¥3,665,502	¥5,903,149
	差し引き	¥0	¥0

第5号議案 規約の改正

◆入退会についての規約の改定

【現行の規約】

(入退会)

第五条 正会員または一般会員として入会を希望する者は、協議会の定める入会申込書を協議会事務局に提出する。

※問題点 会員には誰にでもではなく、ビジョン達成に向けて一緒に活動が出来る人に入ってほしいが、現行の規約では「会員」になる方がどういう人かわからない。

※改善案 会員になる方について、活動内容や人となり事前にわかっていることが望ましいため、協議会会員の推薦を条件とする。

【改定案】

第五条 正会員または一般会員として入会を希望する者は、本会の目的に賛同し、正会員2名以上の紹介をもって、協議会の定める入会申込書を協議会事務局に提出する。

参考資料

輪の国びわ湖推進協議会 会員名簿

1. 正会員（15）

一丸剛
一般社団法人輪の国びわ湖
伊藤真紀
恩地衛
株式会社ミズホネット
小西良章
マイクリング・プロジェクト
新野恭平
田中将人
日本風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」パートナーシップ
福富雅之
藤本芳一
南井良彦
南村多津恵
歴史街道推進協議会

2. 一般会員（10）

上田大介
植田真貴
梶川将由
佐々木和之
滋賀県琵琶湖環境部環境政策課
特定非営利活動法人HCCグループ
特定非営利活動法人五環生活
認定特定非営利活動法人環境市民
長谷川悟士
琵琶湖汽船株式会社
山極明宏
（五十音順 令和4年（2022）5月 日現在）

参考資料 2

輪の国びわ湖推進協議会 役員・運営委員名簿

会長

藤本芳一

副会長

稲永明子（日本風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」パートナーシップ／歴史街道推進協議会）
田中将人

事務局長兼会計

佐々木和之（一般社団法人輪の国びわ湖）

監事

海老島均

福江岬

運営委員

伊藤真紀／一丸剛／恩地衛／川崎一良（マイクリング・プロジェクト）／小西良章
田中将人／新野恭平／福富雅之／南村多津恵／山本一男（株式会社ミズホネット）
横田勝也（マイクリング・プロジェクト）

輪の国びわ湖推進協議会規約

(名 称)

第一条 この会は、輪の国びわ湖推進協議会（以下、協議会という。）と称し、英名は、WANOKUNI Lake Biwa Cycling Promotion Council とする。

(目 的)

第二条 自転車の持つ楽しさや可能性を爆発的にアピールする場として、滋賀が誇る「びわ湖一周サイクリング」をキーとしてムーブメントをつくり、自転車利用者の増加を図ること。また、関係団体との協働のもと、県内外の人々が自転車生活の素晴らしさに気づき、理解し、体験し、生活に取り入れることにより、滋賀が「輪の国」になることを目指す。

(活動内容)

第三条 この協議会では、第二条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 「輪の国びわ湖」推進に向けた普及啓発事業
- (2) 「輪の国びわ湖」推進に向けた社会提案事業
- (3) 「輪の国びわ湖」推進に向けた調査研究事業
- (4) 「輪の国びわ湖」推進に向けたネットワーク構築事業
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

(構成)

第四条 協議会は、正会員及び一般会員で構成する。

- (1) 正会員は、協議会の目的に賛同し、自ら協議会の運営に携わる団体・個人とする。
 - (2) 一般会員は、協議会の目的に賛同する団体・個人及び地方公共団体内の組織（部・課等）とする。
- 2 一般会員は、会議における議決権を有しないものとする。

(入退会)

第五条 正会員または一般会員として入会を希望する者は、協議会の定める入会申込書を協議会事務局に提出する。

- 2 運営委員会において入会申込書を審議し、その承認をもって入会とする。
- 3 正会員または一般会員が会員種別の変更の申し出をしようとするときは、協議会事務局に通知し、運営委員会の承認をもって変更とする。
- 4 正会員または一般会員が退会の申し出をしようとするときは、協議会事務局に通知する。

(役 員)

第六条 協議会活動の円滑な推進のため、以下の役員をおく。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 事務局長兼会計 1名
 - (4) 監事 2名
- 2 役員は協議会の会議において選出する。

(役員任期)

第七条 役員任期は二年とする。ただし、再任は妨げない。

2 役員途中退任における補欠役員任期は、前任者の残任期とする。

(会議開催)

第八条 協議会会議は、総会、運営委員会とする。

2 協議会会議は必要に応じ、会長が召集する。

(総会)

第九条 総会は年1回開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。

2 総会は次の事項を議決する

(1) 事業計画および予算に関する事

(2) 事業報告および決算に関する事

(3) 規約の変更に関する事

(4) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は正会員の過半数の出席をもって成立するものとする。

4 総会議長は、出席の正会員から選出する。

5 総会議事は、出席の正会員の過半数で決する。

(運営委員会)

第十条 協議会活動の円滑な推進のため、運営委員会を設置する。

2 運営委員会は、会長、副会長、事務局長、運営委員によって構成し、必要に応じて開催する。

3 運営委員は、正会員である個人または団体の構成員から会長が指名するものとする。

(会計)

第十一条 事業・事務経費等の経費は、自主事業収入、その他収入をもって充てる。

2 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。

(所在地)

第十二条 協議会を次の所在地におく。

滋賀県守山市梅田町3番6号 南井産業第1ビル

(事務局)

第十三条 協議会の活動を円滑にするため、次の所在地に事務局をおく。

滋賀県湖南市菩提寺東二丁目6番51号 一般社団法人輪の国びわ湖内

(設立年月日)

第十四条 協議会の設立年月日は平成21年10月2日とする。

(委任)

第十五条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し、必要な事項は運営委員会でこれを定める。

附則 この規約は平成 21 年 10 月 2 日から施行する。

附則（平成 22 年 5 月 7 日）

- 1 設立当初の役員任期は、本規約第六条第一項の規定にかかわらず、設立の日から平成 24 年 3 月 31 日までとする。
- 2 この改訂は、平成 22 年 5 月 7 日から施行する。

附則（平成 23 年 5 月 6 日）

- 1 この改訂により選出された監事の役員任期は、本規約第六条第一項規定にかかわらず、平成 24 年 3 月 31 日までとする。
- 2 この改訂は、平成 23 年 5 月 6 日から施行する。

附則（平成 26 年 6 月 6 日） この改訂は、平成 26 年 6 月 6 日から施行する。

附則（平成 26 年 10 月 1 日） この改訂は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附則（平成 27 年 11 月 15 日） この改訂は、平成 27 年 11 月 15 日から施行する。

附則（平成 28 年 7 月 20 日） この改訂は、平成 28 年 7 月 20 日から施行する。

附則（令和 3 年 4 月 10 日） この改訂は、令和 3 年 4 月 15 日から施行する。